

令和7年度学校評価（自己評価）

秋田県立本荘高等学校全日制課程

評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

1 校務一般について（PTA、同窓会、地域連携等）

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 活動の活性化と促進。 ・ 分掌業務プロセスの効率化を図る。 	P				
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣校の総務関係者と情報交換を行い、P T A 活動を見直し、本校の状況に応じた活動を実施する。 ・ 保護者向けの案内や出欠確認をデジタル化することで、情報伝達の迅速化を図る。 					
具体的な取組状況	<p>保護者・P T A 役員への通知や資料の配付、出欠調査を完全デジタル化し、印刷・回収業務を撤廃した。これにより、学年部における事務作業の大幅な削減と効率化を実現し、校務負担の軽減に直接的に貢献した。また、他校の総務部と連携ネットワークを構築し、P T A 運営に留まらない広範な学校運営情報の共有と収集体制を確立した。P T A 組織のスリム化を図ることができた。</p>	D				
達成状況	<p>デジタル移行によって校務の効率化とペーパーレス化を達成し、特に教員の「付随業務」を削減できた。また、外部ネットワークの構築により、自校に最適な事例を他校から取り入れる情報収集基盤を整えた。</p>					
自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td style="width: 80%;">(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">A</td> <td> デジタル化による「校務の効率化」と、他校連携による「情報力の強化」の両面で成果を上げた。特に、学年部と事務部の負担を軽減させたことは組織運営上の大きなメリットとなった。また、業務負担を削減する仕組みを構築できた。 </td> </tr> </table>	(評価)	(根拠)	A	デジタル化による「校務の効率化」と、他校連携による「情報力の強化」の両面で成果を上げた。特に、学年部と事務部の負担を軽減させたことは組織運営上の大きなメリットとなった。また、業務負担を削減する仕組みを構築できた。	C
(評価)	(根拠)					
A	デジタル化による「校務の効率化」と、他校連携による「情報力の強化」の両面で成果を上げた。特に、学年部と事務部の負担を軽減させたことは組織運営上の大きなメリットとなった。また、業務負担を削減する仕組みを構築できた。					

2 学習指導について（授業研究等）

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の枠組みを確立して共有し、授業改善につなげる。 ・定期考査を厳正に実施し、正確な成績処理業務を行う。 		
↓			
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導と評価方法について、各教科内で共通理解のもと実施し、明朗な成績処理を行う。 ・校務支援システムによる成績処理の流れとマニュアルを明確に示し、各学年部とも連携の上で、しっかりと管理された成績処理の流れをつくる。 		P
↓			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・評価については指導計画に基づいて実施することと、各教科内で共有することを周知した。 ・「すぐーる」との連携を調整し、それを踏まえて成績処理日程やマニュアルを再整備した。また、各帳票点検のためのチェックリストを作成し、確認作業を強化した。それらに基づき、各学年で教務部員を中心として業務計画を立て、声かけを実施した。 		D
達成状況	<p>入力データの誤りによる通知票の修正が1件あったが、その他大きな成績処理のトラブルはなかった。</p>		
↓			
自己評価	<p>(評価)</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p>	<p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の見直しと、教務部員による連携で、適切な成績処理のシステムを構築して業務を遂行できた。 ・評価と授業改善については今後も見直しを重ねていく必要がある。 	C

3 生徒指導について（基本的生活習慣等）

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・規律ある生活態度の確立〔(自ら)あいさつ、時間順守、学習環境の美化〕 ・ネット関係モラルの啓発〔スマホ、ネット使用マナー〕 			
↓				
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部と合同で学びの姿勢に対する意識を喚起 ・生活委員会によるポスター製作 ・スマホ安全教室の開催(1年生) ・生徒指導通信での呼びかけ 	P		
↓				
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの姿勢を涵養しているが、クラスごとに異なる点がある。 ・各授業間の黒板拭きは概ね良好に行われているが、今後も継続した指導が必要。 ・早めに登校して自学時間をとれるように指導しているが、8：15以降に登校する生徒が目立つ。 ・スマホ安全教室で制作されて間もない動画を視聴させたところ、生徒達の学ぶ姿勢がより真剣なものとなった。 	D		
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは概ね、落ち着きのある態度で規則正しい生活を送っている。 ・他方、一見して平穏に見える状態にも新たな問題の萌芽が混在している可能性があることを念頭に指導にあたることが大切である。 			
↓				
自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">(評価) A</td> <td style="text-align: center;">(根拠) 生徒指導部一体となり各事案に取り組むことができた。規範意識の育成を通して人格を陶冶し、学びの姿勢を成長させて学力の向上につなげることを目指している。</td> </tr> </table>	(評価) A	(根拠) 生徒指導部一体となり各事案に取り組むことができた。規範意識の育成を通して人格を陶冶し、学びの姿勢を成長させて学力の向上につなげることを目指している。	C
(評価) A	(根拠) 生徒指導部一体となり各事案に取り組むことができた。規範意識の育成を通して人格を陶冶し、学びの姿勢を成長させて学力の向上につなげることを目指している。			

4 進路指導について（進路行事、進路情報等）

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各学力層に対応した学習指導の充実を図る。 ・生徒の個々のニーズに対応した進路指導の充実を図る。 			
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後・長期休業中補習や上位者添削、朝学習等、課外学習活動の更なる検証と精選、実施。 ・スタディサポートや駿台atama+等、生徒の基礎学力向上を目指したオンライン教材の活用。 ・共有ファイル等を活用した職員間の情報共有と情報の並列化。 ・教科・進路・出願指導等の校内研修の検証と改変、校外研修の検証と斡旋。 	P		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生放課後補習は、模擬試験の結果を分析し、重点科目を精選して実施した。低学年の長期休業中講座は実情に応じて習熟度・クラス別を実施した。 ・生徒の基礎学力向上の指針として、新たな教材「駿台atama+学力判定テスト（年6回）」を1・2年生対象に導入・実施した。 ・全学年で模擬試験結果・進路志望推移、生徒面談記録を一体化した共有ファイルを作成し、リアルタイムで生徒情報の可視化に努めた。 ・本校OBや教育業者を講師に招聘した進学指導研究会や、県内外の研究会、予備校主催の教科指導講座への参加を奨励した。 	D		
達成状況	<p>生徒の実情に応じて講座内容を刷新するなど、臨機応変な運用ができるようになってきた。研究会や教科指導講座も職員が継続的に参加するなど、ニーズに応じた研修の機会を提供することができた。</p>			
自己評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="368 1010 488 1178">(評価) B</td> <td data-bbox="493 1010 1393 1178">(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の充実は図れているものの、模擬試験・共通テストの結果に結びつくには道半ばである。 ・生徒情報の共有化がなされ、生徒ごとの実情に応じた進路指導が徐々に確立されつつある。 </td> </tr> </table>	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の充実は図れているものの、模擬試験・共通テストの結果に結びつくには道半ばである。 ・生徒情報の共有化がなされ、生徒ごとの実情に応じた進路指導が徐々に確立されつつある。 	C
(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の充実は図れているものの、模擬試験・共通テストの結果に結びつくには道半ばである。 ・生徒情報の共有化がなされ、生徒ごとの実情に応じた進路指導が徐々に確立されつつある。 			

5 特別活動について（学校行事、部活動等）

重点目標	「右文尚武」「質実剛健」「玲瓏同氣」の精神に基づき、自己肯定感を育み、豊かな人間性と主体性・公共性を高め、総合的な人間力の向上を目指す。			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動・学校行事・生徒会活動への積極的な取組が見られる。 ・地域・社会との主体的な関わりは少ないため、機会提供が必要。 ・生徒会・部活動での活躍を通じ、自己有用感・達成感を得る生徒が多い。 			
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・成長実感と成功体験の機会創出。 ・他者尊重と規範意識に基づく行動の実践。 ・協働によるコミュニケーション能力や協調性の育成と社会性の涵養。 ・目標設定及び振り返りの習慣化と自律性や挑戦意欲の育成。 	P		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス活動の推進（LHR、SHR等）。 ・生徒会活動を通じた民主的仕組みの理解と実践（総会、委員会、選挙等）。 ・生徒会執行部、委員会活動の推進とリーダーシップの育成。 ・学校行事を通じた人間関係形成と社会生活への実践的態度育成（インターンシップ、修学旅行、ボランティア等）。 			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRを軸に学校行事と連動したクラス活動を展開した。 ・「あきた総文2026プレ大会」日本音楽部門に生徒約60名が参画し、大会の成功に大きく寄与した。運営側や参加者からは感謝の言葉が多く寄せられた。 ・生徒会執行部を中心に、全校生徒の意見を集約しながら、スマホの活用をはじめとした行事のDX化など、前年踏襲を打破する新たな試みに挑戦し、三大大行事や委員会活動を活発化させた。 ・行事ごとにアンケートを実施し、クラス討議と生徒総会を連動させ、生徒主体で課題の共有と解決を図るサイクルを構築した。 	D		
達成状況	各活動を通じ、生徒の主体性が顕著に向上した。新機軸の導入や対外活動への参画により、目標である「成長実感」と「成功体験」を高い水準で達成できた。			
自己評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="370 1361 491 1536">(評価) A</td> <td data-bbox="497 1361 1391 1536">(根拠) プレ大会参画や行事DX化を通じ、具体的な成功体験を創出できた。また、生徒会執行部・委員会の連携により、自律的な組織運営と改善サイクルが定着したため。</td> </tr> </table>	(評価) A	(根拠) プレ大会参画や行事DX化を通じ、具体的な成功体験を創出できた。また、生徒会執行部・委員会の連携により、自律的な組織運営と改善サイクルが定着したため。	C
(評価) A	(根拠) プレ大会参画や行事DX化を通じ、具体的な成功体験を創出できた。また、生徒会執行部・委員会の連携により、自律的な組織運営と改善サイクルが定着したため。			

6 情報管理について（授業や校務でのICT活用等）

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員、生徒ともに、学校生活全体でICTを積極的に取り入れることで活用しながらリテラシーを身に付ける。 ・研究の機会を充実させ、職員の意識改善を図る。 			
↓				
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・従来のICT活用ガイドラインを新たにルールとして策定し、学校全体としてリテラシー意識の統一を図る。 ・研修班との連携を強化し、効果的かつ体系的な職員研修の機会を提供できるよう時期や内容を精選する。 	P		
↓				
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・BYODを前提として、新たに「ICT活用レギュレーション」を策定した。また端末の破損修理の手続きや貸与機の貸出が円滑に行えるよう、手続きを体系化した。 ・新任職員に対するClassi研修会や、自動採点システム（百問繚乱）の研修会を実施した。 	D		
達成状況	<p>百問繚乱をはじめとするWebサービスは授業や行事など様々な場面で活用する様子が見られた。また、他分掌との連携を重視したことにより、リテラシーや技能向上に向かう意識統一を円滑に行うことができた。</p>			
↓				
自己評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="371 976 488 1151">(評価) B</td> <td data-bbox="488 976 1385 1151">(根拠) 意識統一の下地は共有できたが、端末やWebサービスに対する知識・技能の差が職員間で未だに大きい。次年度からBYOD機を利用する生徒が過半数になることを踏まえ、活用推進のための研修機会の設定を継続的な課題としたい。</td> </tr> </table>	(評価) B	(根拠) 意識統一の下地は共有できたが、端末やWebサービスに対する知識・技能の差が職員間で未だに大きい。次年度からBYOD機を利用する生徒が過半数になることを踏まえ、活用推進のための研修機会の設定を継続的な課題としたい。	C
(評価) B	(根拠) 意識統一の下地は共有できたが、端末やWebサービスに対する知識・技能の差が職員間で未だに大きい。次年度からBYOD機を利用する生徒が過半数になることを踏まえ、活用推進のための研修機会の設定を継続的な課題としたい。			

令和7年度学校関係者評価委員による評価

秋田県立本荘高等学校全日課程

- (評価基準) A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

	1	2
項目	校務一般について ・PTA、同窓会、地域連携等	学習指導について ・授業研究等
学校関係者評価委員の意見・感想・提言等	<p>○デジタル化による「校務の効率化」は、画期的な取り組みだと思います。その成果が表れているようですので、更に進化させ、積み重ねていくことが大事だと思います。</p> <p>○本荘高校に対する地域の目は、あらゆる場面で見られていると考えるので、可能な限り情報発信をお願いします。</p> <p>○スムーズな校務が行われている。ICT活用で効率化が図られている。</p> <p>○コロナ禍で行事や交流が制限されてから、すべての活動に対する考え方が変わり、勢いがなくなっている現状。PTA活動等は大切と思いますが、運営は大変と察します。</p> <p>○適切に客観的な自己評価と認められる。中期・長期目標に基づく各年度目標の設定がなされると、効果的なPDCAサイクルが回ると思う。</p> <p>○デジタル化への取り組みや他校との連携などにより、教育環境の整備・活性化が見られた。</p> <p>○たいへん頑張られていると思います。</p> <p>○デジタル化による成果が大きいとのことと先生方の負担の軽減に繋がったので良かったと感じました。</p>	<p>○生徒への目標・目的をきちんと持たせることを重点にして、自ら学ぶことの必要性を感じられるようにして欲しいです。</p> <p>○授業中のグループワークに感心した。授業を通じコミュニケーション力がつくよう工夫されていて評価できる。</p> <p>○家庭科の内容が、生活を主とする内容に変わっていることに驚いています。</p> <p>○妥当な自己評価である。「授業改善」に関しては、常に研修や勉強会の企画があり、不断のFD活動が展開されることに期待する。</p> <p>○前年度の課題に対して、具体的な取り組みがなされ改善が図られている。</p> <p>○生徒の学力向上のため、引き続き研究を重ねていただきたいと思います。</p> <p>○重点目標に対し、それぞれ具体的に取り組まれ、授業研究なさっておられると感じました。</p>
評価	A	A

	3	4
項目	生徒指導について ・ 基本的生活習慣等	進路指導について ・ 進路行事、進路情報等
学校関係者評価委員の意見・感想・提言等	<p>○「本高生は、礼儀正しく、挨拶がきちんと出来る生徒が多い。」というのが近年の評価だったと思います。然しこの度「上級生になるほど挨拶がよい。低学年では自ら進んで挨拶する姿勢が足りない生徒がみられる。」との記述がありました。二極化が進んでいるのか、それとも単なる一時的な問題なのか、基本的生活習慣は、高校生活全般に関わる大切なことなので、注意深く見守る必要があると感じました。</p> <p>○社会常識を身に付けさせて下さい。</p> <p>○指導は適切に行われている。 3つの不足（睡眠不足、栄養不足、運動不足）とメンタル不健康は本校においては大きな問題ではなさそう。</p> <p>○家庭でしつける習慣が、小・中学校を経ても更に高校で指導の必要があるとは理解できませんが、現実問題ですね。</p> <p>○良好な活動状況と受け止める。教務部に限らず、他の分掌との連携の強化、情報共有が望ましい。</p> <p>○生徒の実態を把握し、管理職を含めたチームでの対応がなされている。また、教職員アンケートからも保健室との連携も見られた。</p> <p>○とても良くできていると思います。</p> <p>○上級生になると挨拶の姿勢がよくなるのですが、これは先生方のご指導のおかげだと思います。今の時代の SNS の扱いが非常に大変そうだと感じました。</p>	<p>○様々な学習指導の充実が図られているのは、いいことだと思います。特に、全学年で共有ファイルを作り、情報の可視化に努めていることは、地道な努力であり、評価されるべきことだと思います。成果は、直ぐには表れないかもしれませんが、その積み重ねの経験知が、きっと近い将来、表れるものと期待します。</p> <p>○生徒への目標・目的をきちんと持たせることを重点にして、自ら学ぶことの必要性を感じられるようにして欲しいです。</p> <p>○模擬試験毎の目的を生徒・保護者に伝えた方がいいであろう。生徒が目指す大学毎の特徴ある入試に合わせた対策に早めに時間を割く。</p> <p>○学力差の激しい現実と思う中で、「生徒の実情に応じた指導」というのが、先生方のご苦勞を痛切に感じます。</p> <p>○自己評価はやや厳しめであるが、これは掲げている高い目標ゆえと考え、尊重する。取組に応じて達成状況が劇的に変化するような即効性は期待するのは難しく、長い目で捉えたい。そのためにも KPI を明示した方がよいのではないか？</p> <p>○試験やテストの結果からは成果はまだ十分ではないとの自己評価があったが、重点科目の精選や習熟度別講座など、取り組みは大いに評価すべきものがある。</p> <p>○多様な情報を与えていただきたいと思います。</p> <p>○個々のニーズに対応した進路指導は非常にありがたいことと感じました。</p>
評価	A	A

	5	6
項目	<p>特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動等 	<p>情報管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や校務での ICT 活用等
学校関係者評価委員の意見・感想・提言等	<p>○「あきた総文プレ大会参画」や「行事 DX 化」などを通じ、活動が活発になっていることは、よかったと思います。これらの活動に対して、引き続き、生徒の主体性を生かして頂ければと思います。</p> <p>○学習と部活の両立をしっかりとできるように。</p> <p>○プレ大会への参画、三大大行事や生徒会活動等、充実している。評価が必ずしも高くない部活動の効能も評価したい。</p> <p>○総文祭関連の活動については大きく評価したい。学校祭等の運営は年々レベルが下がっていると聞こえてきます。</p> <p>○自己評価は妥当で、PDCA サイクルが良好に回っているように受け止める。「あきた総文 2026」は大変であろうが、良い契機と思う。</p> <p>○クラス討議と生徒総会の連動など、生徒主体の活動がみられている。</p> <p>○好成绩おめでとうございます。</p> <p>○活動を通じて生徒さんの持っている可能性を引き出し、それを生かしている機会が多かった年のように感じました。</p>	<p>○昨年度の感想と一緒にですが、ICT・AI が益々進化・発達する時代背景の中、個人ベースで考えると、何処にいても、何処の高校であっても条件はあまり変わらないと思います。違いが出るのは、生徒同士或いは生徒と先生の関係性の中で、一人では成し得ない、「切磋琢磨」しあう関係性を、学校全体として、どう築けるかの違いだと思います。その為には、本校の校標の一つ「玲瓏同氣」は、他校には見られない特徴であり、その伝統をもっと生かさせたらと思います。</p> <p>○教員の学習が大切だと思います。</p> <p>○デジタル化による校務の効率化が進んでいる。付随業務に要した時間を削減し、教室での生徒との時間に充てることが可能。</p> <p>○どんどん進んで行くデジタル化に先生方の知識も進んでいかなければならないことが、大変と思います。</p> <p>○適切な自己評価である。ICT サービスは日進月歩ではあるが、やや抽象的な中期・長期目標のもと、各年度に KPI の設定可能な具体的な段階目標を設定すると良いのではないかと。</p> <p>○BYOD の開始など、難しい情報管理の状況において、生徒や職員に対しても対応する取り組みが見られた。課題はあるが、次年度への取り組みを期待して A 評価としたい。</p> <p>○工夫してうまく行われていると思います。</p> <p>○時代のニーズに応じて先生方も対応するのはとても大変そうと感じました。</p>
評価	A	B

◎その他のご意見等

- 近年、学校評価委員会に出席して、特に強く感じることは、リテラシーの重要性であります。私自身、よく理解している訳ではないのですが、よく此の言葉（リテラシー）が、先生方からも使われます。「リテラシーの重要性とは？」
- 現代において、リテラシーを高めることは、情報過多の社会で、正しい判断を下し、仕事・学習を円滑にすすめるため、また個人の成長や組織の生産性向上に直結する意味でとても重要であります。だからこそ、「リテラシー」と「スキル」の違いを理解して、「スキル」の技術力を高めるとともに、「リテラシー」の質を高めていかなければならないと思います。最近、大学の理工系の教授と話す機会があり、その先生が云うには、自分が作った論文を AI に評価してもらっているとのこと。そして其の AI の個性というか特徴を掴み、繰り返しのやり取りで、ブラッシュアップしていくとのこと。そこまで進んでいるのだと驚いた次第であります。AI 時代の学校教育は、益々難しく複雑化していくだけに、正解はなく、先生方には、此れまでもそうでしたが、それ以上に、人間性溢れる教育が求められていると思います。それこそ AI に問うてみると、『教師の役割は「知識の伝達者」から、学びのデザイナー・伴走者・人格形成の支援者へと変化します。』と回答がありました。言葉で云うのは、簡単ですが、実際は教育者として実践するのは、本当に物凄く大変な困難なことだと思います。然し乍ら、そのような現状認識あるいは未来認識を持つておく必要はあると思います。
- コロナ禍以降、先生と同窓会との交流会が、ほとんどありません。以前は、先生の歓送迎会などで、「私たちは、赴任した先の学校が母校になるのだ。」との話を聞き、感銘を受けました。母校の伝統・校風をつくる先生の力は、とても大きいと感じております。母校発展へのご尽力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。
- 地域の牽引となるべき学校であることを意識して欲しいと思います。
- 先生方に笑顔が少ないと感じた。多忙のためか。先生方には教える喜びを実感して頂きたいし、生徒には学ぶ喜びを感じて欲しい。共通テストの時が学習成果のピークとなるが、生涯にわたる学習の大切さも教えて欲しい。
- 全体的に先生方の評価が低いと思います。学力差等々で難儀されていると思いますので。
- 校務の DX 化を積極的に推進している様子が伝わってきた。その取り組みに敬意を表したい。BYOD に関して、デジタル教材の開発や課題プリントや授業 PPT スライドの PDF 化とダウンロード配布、さらには電子ノートテーク、生成 AI の活用など、教育面の ICT 活用や DX 化に関して研究すべきことがまだまだあるのではないかと外部評価者の立場から、KPI による成果の説明の方が分かりやすい部分も少なくなく、前向きに検討していただきたい。
- 正直、この「評価」をつけることが難しく、先生方が手抜きなくご苦勞なさっておられるわけだから、私としてはすべて「A」と思っております。なので全部「A」と記入させていただきました。